

カツオ県民会議 第5回情報発信分科会 議事録

2017年10月24日(火)午後3時～ 土佐料理「司」

※出欠は別紙p.7

◇議 題

1 来年に向けたロードマップと課題について

【提案】

・西野委員が次の通り提案。ロードマップに盛り込むべき課題としてまず、カツオを取り巻く危機的現況や県民会議がどんな活動を行い、何を目指しているのか、分かりやすい内容のパンフレット作成に早急に取りかかる必要がある。役割分担と担当者を決め、31日の幹事会にラフ案を提示するスケジュールでどうか。

【意見交換】

- ・12月にWCPFCが控えていることを考えると、英文版も制作して持参するかどうかも併せて検討しなければならない。
- ・パンフは11/9シンポ向け、県内向け、県外向けとは別に、WCPFC用も検討したらどうか。
- ・他県との連携した運動を視野に入れると、まずは気仙沼、勝浦、焼津などカツオを通して高知と関係が深い県から配布するパンフを作ればどうか。
- ・宮崎にも高知と縁があり、情報発信ができる人材がいる。
- ・東京のアンテナショップ「まるごと高知」や各地の物産展にパンフを置いてもらうことも検討。
- ・パンフレットの内容、デザイン、レイアウトなどはHPから持ってくる事が可能だ。パンフの仕様は一枚物、三つ折りなどを検討したらどうか。

【確認事項】

- ・各分科会座長に分科会事務局 松島からパンフの内容として各分科会から発信したい文案（箇条書き程度でも可）を依頼し、速やかに収集した文案を小笠原委員へ送付する。
- ・小笠原委員は、文案内容によって県外用あるいは県内用などの用途に仕分けして編集。パンフの仕様、用途などは収集した文案の内容に応じて臨機応変に対応し、取り急ぎラフ案を作成する。
- ・31日の幹事会までのラフ案取りまとめはまず、無理なのでスケジュールについては再考する。

2 当分科会として取り組むべき課題について。

【提案1】

県民会議のHP（ホームページ）は企画段階から立ち上げまで、高知新聞グループのマンパワーで維持してきたが、来年度に向けて運営態勢をどのようにしていくのか、予算面も含めた検討が必要だ。

【意見交換】

- ・ 労力、経費など、これまでの経緯は「ほとんどタダ同然」が実情。これを今後も続けるのか、大事な検討課題だ。
- ・ HP運営やパンフレット類のデザイン外部発注などの予算措置とともに、大口の資金スポンサーを新たに獲得することも検討課題になってくる。
- ・ 当分科会が主催する講演会などの勉強会を今後も展開し、講演録を充実させてHPにアップしたらどうか。そのための労力をどう確保するか。

【確認事項】

- ・ HPは県民会議が持つ唯一の情報発信手段であり、大きな役割を果たすHPの運営などに要する広報予算には相応の予算措置が必要であり、大口の資金スポンサーを開拓する。
- ・ 来年に向けてロードマップと密接に関係することもあり、西野委員がHP運営など広報予算案の基本的考え方などをまとめる。

【提案2】

- ・ 各分科会で行われた論議や抱えている課題を各分科会メンバーが互いに共通するために、例えば「県民会議、私はこう考える」でテーマで座長あるいは副座長へのインタビューをHPに掲載したらどうか。これは県民会議の活動を広く県民に理解してもらうことにもつながる。

【意見交換】

- ・ 県民会議の公式な趣意書などはあるが、分科会関係者の責任ある立場の肉声はリアルだし、分かりやすいだろう。
- ・ 座長、副座長に限らず、インタビュー対象者を広げたらどうか。県民会議にはカツオとまったく関係ない企業の関係者も多く、「なぜ、あの人が？」という関心を呼ぶことにもつながる。

【確認事項】

- ・ マスコミのメンバーがインタビュワーとして取りあえず、5回くらいやって

みる。

【提案3】

・カツオ県民会議に参加しているメディアはカツオを巡る報道、企画を精力的に進め、報道の成果物は著作権をフリーとする社内手続きを検討する。

【意見交換】

・新聞紙面の記事は、著作権の2次利用に関する規定に基づいて利用を制限している。ただ、学校の授業に教材として使うことを前提にした著作権の2次利用は制限していない。これは2次利用者が把握でき、利用のされ方が想定できる管理範囲内だが、不特定多数を対象に何に使われるのか分からない想定では著作権フリーは極めて難しい。

・掲載記事の2次利用について、かつては出典や記事の日付などの明示を条件にする程度で許可していたが、近年は著作権関係の取り扱いは本社に一括されており、手続きや料金などが伴い、煩雑になったのが実情だ。

【確認事項】

・著作権フリー案はボツにする。

【提案4】

・県地産外商公社のキャンペーンに県民会議の問題意識を反映させてはどうか。

【意見交換】

・小笠原委員：高知家プロモーションの中に「高知家の〇〇」というまとめサイトがある。ここで、例えば「カツオ県民会議って何だ！」という展開を若い人向けに発信はできる。

【提案5】

・高知市は現在、県民会議の構成員がおらず、分科会活動にも関与が少ない。高知市を県民会議活動に参加してもらおうよう、働き掛けたい。

→西野委員が高知市に話をもちかけた行きがかり上、引き続き同委員が取り組むことを確認。

【提案6】

・渉外担当者を決めて県民会議で解決すべき案件や外部折衝が必要な案件に当たってはどうか。

【意見交換】

・特定の専任者だと負担も大きくなり、案件に応じてベストな人選をする方式がスムーズにいくのではないか。

【確認点】

・案件の内容に応じたボランティア方式で当たる。

3 HPのリンク先について

【提案】

・受田会長代行から提案があったリンク先は水産庁、県水産振興部、日本カツオ学会の3件。

・県民会議の会員が所属する企業・団体のHPは、カツオに関する知見を深めるためのリンク集とは別途、切り離れたページにしたほうがいいのではないか。

【意見交換】

・県水産振興部：リンク先としての可否について、この場で即答はできないが、問題はないと思われる。持ち帰って検討すれば2～3日で結論が出るのではないか。

・JAFIC（一般社団法人 漁業情報サービスセンター）が「おさかなひろば」というサイトを開設しており、ここにもリンクを張ればどうか。全国の産地・消費地・市況などの流通情報を見ることができる。ただ、会員制のサイトなので会員登録料が必要だ。

・バナーをどうするか検討も。経費が発生するため、幹事会でも今後の課題だ。

・水産庁の外郭団体「水産研究・教育機構」はカツオに限らず、水産資源などに関する情報量が多い。ここも候補先にしてはどうか。

【確認事項】

・水産庁にリンクを張ることについて、手続きに伴う同庁との折衝は県水産振興部が担当する。

・竹内太一副座長が主宰する「海の幸を未来に残す会」や、中田勝淑副会長の「カツオを美味しく食べる会」、岡内啓明副会長の「高知の食を考える会」はリンク先から外せないだろう。幹事会事務局が3氏の了解を求め、得られ次第、実行する。

・「まるごと高知」もリンク先に加える。

・**県との連携について西野委員からの提案。**

・幹事会の方々には来年度の活動に向けたロードマップの考え方について既に提案した。その中で尾崎県政で多用されているK P I（重要業績評価指標）策定とP D C Aサイクルの活用を提起。これと同じ内容の提案を尾崎知事にも示し、①K P I、P D C Aサイクルをカツオ県民会議に活用する、②高知家プロモーションへの指示、③小学校でのカツオに関する授業展開の拡大を3本柱として申し入れた。

・具体例として例えば、カツオ一本釣り漁を維持するためのK P Iを県水産振興部と消費・漁業分科会で策定。また「美味しいカツオを食べるなら高知で」という情報発信のK P Iは、地産外商公社と情報発信分科会が担当する。

「県民がこれまで以上にカツオを愛する」のK P Iは県の教育担当の部門とカツオ食文化分科会が担う、というイメージだ。K P Iが決まれば、分科会での事業をこれに沿って進め、県は産業振興計画の中に位置づける。こうした進め方を取り入れたらどうか。分科会の皆さんの意見をお聞きしたい。

【意見交換】

・各分科会が目指すゴールはそれぞれ相違がある。カツオ一本釣り漁を維持するためのゴール設定に対して現在地点を数値化したり、また「美味しいカツオを食べるなら高知で」といった漠然としたゴール設定で到達度を指標化することがそもそも可能なのか。

・カツオ県民会議が抱えている難しさの一つに、活動内容の検証や事業評価が容易でないことがある。しかし、事業を前に進めていくためには避けて通れない大事なことであり、「難しい」と誰しもが感じている現状から一步踏み出すために、尾崎県政が産業振興計画で多用しているK P I、P D C Aサイクルという手法を使ってみてはどうか、ということだ

・カツオ一本釣りの船主側が県との協議でこれまで通例だったのは補助金の要望がだったが、例えば水揚げ額の目標数値を設定し、これを実現するためにはどうすれば良いか、県と具体的に論議していくというやり方も可能なのではないかと思う。

・提案内容を水産振興部として検討はすることにはなるだろうが、個人的な意見として述べさせてもらおうと、K P IにしてもP D C Aにしても県でなければ出来ないという性質のもではない。仮りに県がこれをやるとうまく回るとはなかなか想像できない。水揚げ額を目標数値としての落とし込んで実績評価をするにしても、目標数値に足りないときの分析として例えば県民会議の頑張りが足りなかったから、といった分析はかなりの難しさを伴うと想像がつく。ただ、ノウハウを提供することはできるのではないか。あくまでも個人

的意見だが。

・県民会議の良さは民間の自由な発想やスピード感。極端な言い方をすると、県民会議の事業活動を県が進捗管理をするようなことになり、これまでの県民会議のスピード感や自由な発想に県が絡んでくるのは得策ではないと感じる。

・これから作成するロードマップは県民会議が行うべき課題を踏まえた活動目標でもある。要は、いつまでにこの事業をやると目標設定したロードマップで一つ一つが実際に達成できているかどうか、我々が進行管理をしっかりチェックする態勢になれば良いのではないか。

・県が目標設定すると、どうしても低い目標設定になりがちだ。県は何事にも慎重になるから。われわれが高い目標の設定を提言をすることによって、県の協力を引き出し、予算措置を促すという方向を求めるべきではないか。

・来年に向けたスケジュールも含め、ここで出た論議は幹事会でも徹底討議する必要がある。

3「カツオ県民会議シンポジウム」(11月9日)について

幹事会事務局 奥代氏が当日の告知用パンフレットを持参。分科会委員に適当な枚数を持ち帰り、周知と参加呼びかけを依頼する。

4 次回分科会の日程について

・竹内副座長が欠席につき日程は後日決める。座長、副座長 3 人の日程調整を優先せざるを得ないことを事務局が説明。決まり次第、告知する。

→後日、日程調整した結果、次回は11月28日(火) 13:30から2時間程度、会場は高知新聞放送会館・東館とする

5 その他

・高知放送の地域ニュースワイド番組「e y e +スーパー」が、30日放送の番組でカツオ特集を企画している。

以 上

第5回情報発信分科会 10/24 出欠

座長	宮田 速雄 (高知新聞社代表取締役社長)	出
副座長	竹内 太一 (加寿翁コーポレーション代表取締役社長)	欠
副座長	久松 朋水 (株式会社太陽 代表取締役社長)	出
	川渕 良幸 (高知ユニホームセンター専務)	欠
	西野 秀 (共同通信高知支局長)	出
	木下 正章 (さんさんテレビ報道制作局次長)	欠
	矢野 剛 (エフエム高知放送制作部長)	欠
	田中 靖秀 (ケーブルテレビ常務取締役)	欠
	山中 昭典 (浜吉ヤ代表取締役)	欠
	福島 和彦 (テレビ高知報道技術センター次長)	欠
	水谷 太一 (J C 青年会議所理事長)	欠
	村瀬 達男 (毎日新聞高知支局長)	出
	越智 義久 (R K C 高知放送報道制作局次長)	欠
	北澤 和彦 (NHK 高知放送局長)	欠
	橋田 幸秀 (全日本司厨士協会高知県本部)	欠
	石元浩之進 (県観光コンベンション協会)	欠
	佐竹 新市 (学校法人 龍馬学園理事長)	欠
	門田 祥子 (高野光二郎秘書)	欠
	小笠原佳孝 (轟組総務部)	欠
	大西みちる (現代企業社 取締役副社長)	欠
	小野川義人 (ほっとこうち代表取締役会長)	出
	池澤 秀郎 (上町池澤)	欠
	泉 佳孝 (大熊)	欠
	黒笹 慈幾 (南国生活技術研究所)	欠
	後藤 昌弘 (ANA 高知支店長)	出
	木村 雅男 (ANA 高知支店マネジャー)	出
	富岡 健太 (明神水産)	欠
	山中 智貴 (ミタニ建工)	欠
	田岡 弘久 (J R 四国高知企画部長)	欠
オブザーバー	中田 (カツオ組合長)	出
オブザーバー	津野健太郎 (県漁業振興課長補佐)	欠
オブザーバー	梶 達也 (同課チーフ)	出
オブザーバー	奥代 智 (幹事会事務局 高知広告センター)	出
事務局	松島 健 (高知新聞社社長室)	出